

地域農業の将来に関するアンケート調査 報告書

令和2年3月

松江市産業経済部

I 調査の概要

1. 調査の目的

松江市においては、平成24年度から平成25年度にかけて5年後、10年後の地域における農業の未来を見据えた計画となる「人・農地プラン」について、公民館区を基に市内22地区で策定し、集落・地域が抱える人と農地の問題を解決する取り組みを推進している。

しかし、高齢化による農業従事者の減少や耕作放棄の増加などにより、地域の農業を取り巻く環境は厳しさを増している。このことから、現在の「人・農地プラン」を集落ごとに細分化し、地域の実情に即した計画を改めて策定することを目的に、地域の農業者を対象にアンケートを実施し、調査及び調査結果に対する分析を実施するものである。

2. アンケート送付部数及び対象集落数

(1) アンケート送付部数

5,757 部

(2) 集落数

407 集落

3. アンケート調査の実施について

(1) アンケート調査の有効回答件数・回収率

調査対象件数	5,757 件
回答件数	1,916 件
有回答数	1,906 件
有効回答率	33.1%

(2) アンケート調査の実施方法

調査対象集落に対して郵送アンケート調査を実施した。

4. 調査実施機関

株式会社東京商工リサーチ松江支店及び本社（市場調査部）

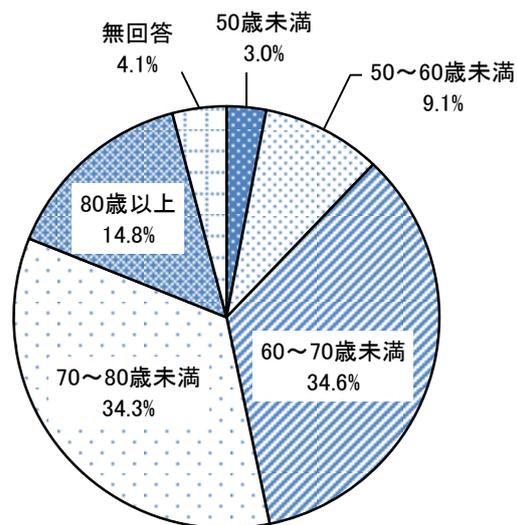
Ⅱ アンケート調査の結果

1. 経営主/世帯主について

(1) 年齢

「60～70歳未満」が34.6%と最も高く、次いで「70～80歳未満」が34.3%、「80歳以上」が14.8%となっている。

(N = 1906)



(2) 耕作している農地面積

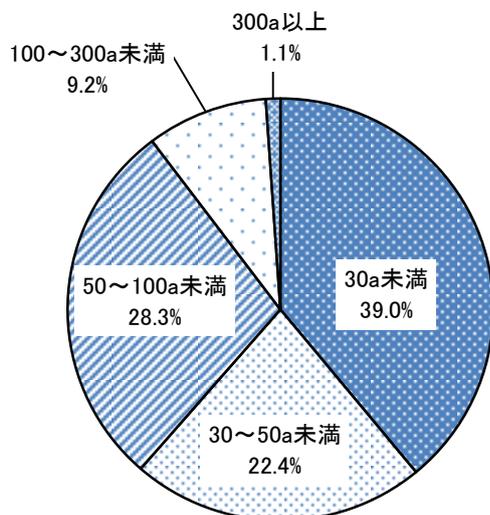
① 所有地

1. 田

「30a未満」が39.0%と最も高く、次いで「50～100a未満」が28.3%、「30～50a未満」が22.4%となっている。

なお、総面積は、111,455.6aであった。

(N = 1519)

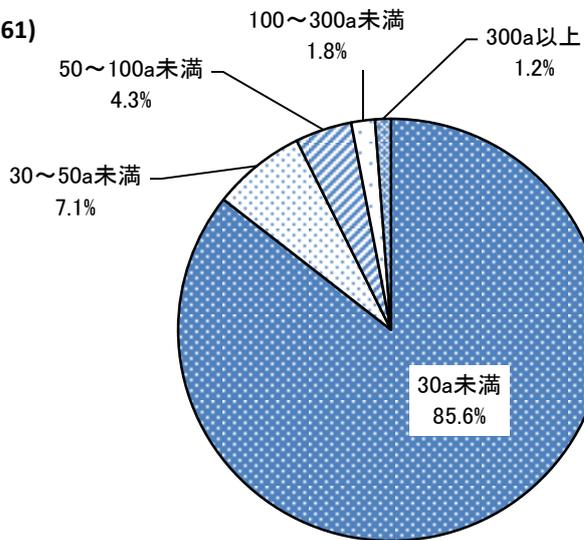


2. 畑

「30a 未満」が 85.6%と最も高く、次いで「30～50a 未満」が 7.1%、「50～100a 未満」が 4.3%となっている。

なお、総面積は、41,345.7a であった。

(N = 1361)



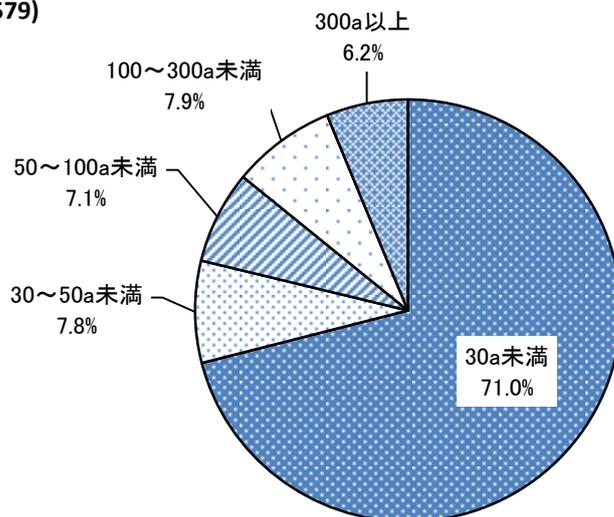
②借受

1. 田

「30a 未満」が 71.0%と最も高く、次いで「100～300a 未満」が 7.9%、「30～50a 未満」が 7.8%となっている。

なお、総面積は、39,329.1a であった。

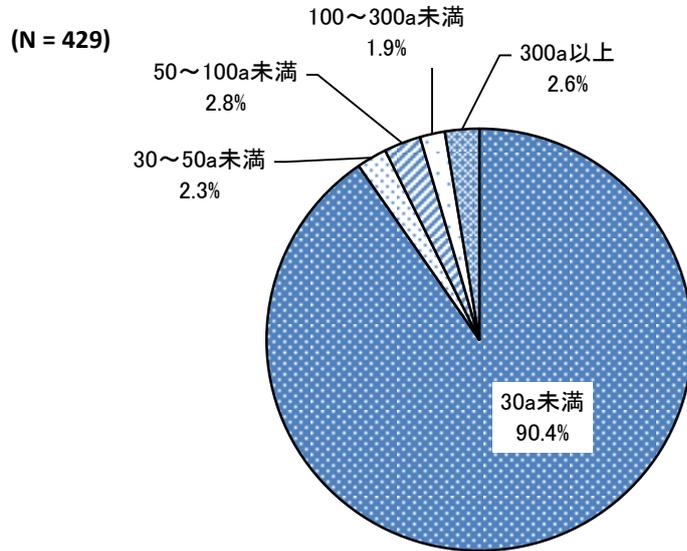
(N = 579)



2. 畑

「30a未満」が90.4%と最も高く、次いで「50～100a未満」が2.8%、「300a以上」が2.6%となっている。

なお、総面積は、10,805.7aであった。

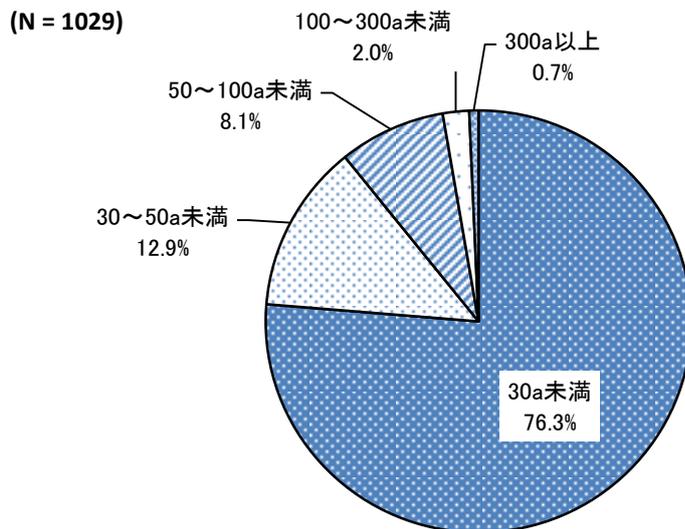


(3) 耕作していない農地

1. 田

「30a未満」が76.3%と最も高く、次いで「30～50a未満」が12.9%、「50～100a未満」が8.1%となっている。

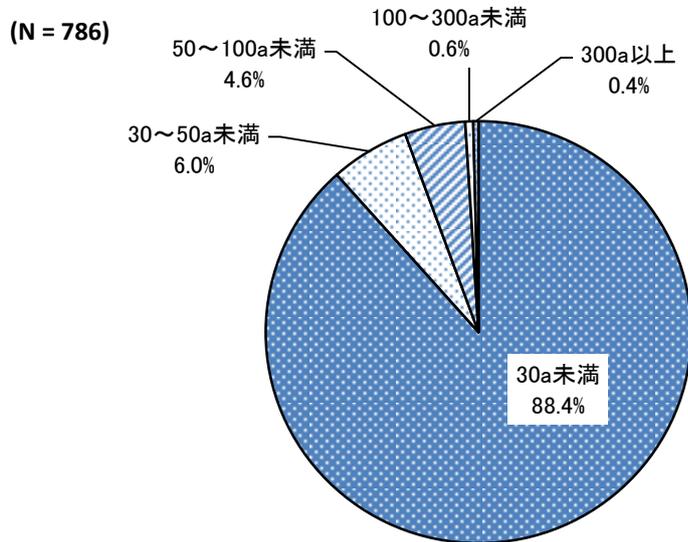
なお、総面積は、28,273.2aであった。



2. 畑

「30a 未満」が 88.4%と最も高く、次いで「30～50a 未満」が 6.0%、「50～100a 未満」が 4.6%となっている。

なお、総面積は、15,058.6a であった。

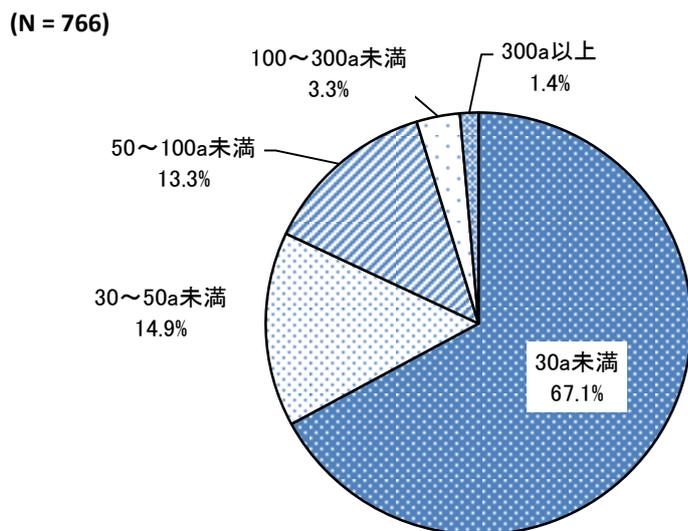


(4) 貸し付けている農地面積

1. 田

「30a 未満」が 67.1%と最も高く、次いで「30～50a 未満」が 14.9%、「50～100a 未満」が 13.3%となっている。

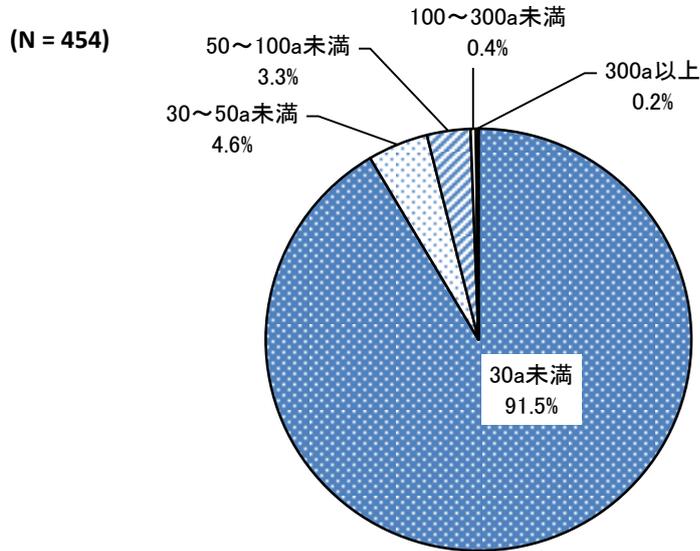
なお、総面積は、48,917.9a であった。



2. 畑

「30a未満」が91.5%と最も高く、次いで「30～50a未満」が4.6%、「50～100a未満」が3.3%となっている。

なお、総面積は、3,338.4aであった。



(5) その他(畜産、果樹等)

その他(畜産、果樹等)の回答内容	
畑11aの内果樹5aあり	ブルー8本 サクランボ4本 桃16本 イチジク3本 試験のため植えてます
果樹	梅
貸し付けている農地8.5aは来年度より耕作しない(高齢により)	果樹少々
果樹、一般野菜外管理	採卵鶏4,200羽
果樹4a	菌床しいたけ栽培 借受 1.6a
10a	梅5R
果樹5a	山畑 20a
乳牛7頭	果樹=7a
柿	3a
果樹50a	果樹3a
10a	楯屋干拓地 30a弱
葡萄ハウス10a	キウイ1a
和牛親・子17頭	柿
西条柿30a	成牛7人、育成2人、子牛6人
植木	柿、栗、ゆず
2.9a	樹園地(梅) 13.5
4a	10.85(柿)
果樹20a	和牛
果樹47a	柿
果樹75a	西条柿
柿・野菜等	柿、栗等 1.5a
畑60a→果樹(柿)、田15a→果樹(ミカン)植付	23a西条柿
畑地は西条柿園です。	果樹2a
西条柿栽培	耕作している畑の内、果樹が9.0a
和牛5頭	9a
柿	梅1a 柿2a
西条柿、富有柿	モモ、ブドウ、カキ、ミカン
果樹(柿)13a	果樹に使用(耕作していない土地)
柿少々	柿
竹林	柿、栗、花木、20a
畑野菜9a、果樹6a	果樹8a
ゆず1本、くり3本、かき2本	3a
10a	1a
柿、みかん、茶、他	ユズ畑0.4
栗・ユズ、外	肉用牛20頭
木が大きくなっているところも有る	ゆず

その他（畜産、果樹等）の回答内容	
自家用のユズ3本とウメ2本	果樹20 a
メロン、施設野菜	果樹22 a
繁殖牛1頭、子牛1頭	酪農業
畑のうち7 a h 果樹	畜産業
12.7（果樹等）	空地に果樹を2,3本植えている。
柿・栗・みかん・ブルーベリー	西条柿50 a いちじく10 a ブルーベリー10 a その他10 a
10a	5 a
山の畑10a程度に果樹を植えた。	20 a（イチジク）
田（13a）に果樹と野菜。畑（3a）にお茶の木と千両花木	20 a は花木養育中です。60 a はすべて地目は田で現状畑です
果樹等（梅、柿10a）	西条柿
西条柿	西条柿30 a
1.2a（果樹）	柿
栗	果樹（西条柿、梅）
ミカン、イチヂク5 a	西条柿30 a
25a	30 a
2反	柿畑7 a
柿80	桃、柿、竹ノ子、椎茸
果樹10 a	果樹27 a
柿（西条）3a	柿15 a
柿1a	柿、茶、40 a
2a	梅20 a、柿10 a
田んぼ2反、畑1a	果樹45 a
西条柿5本植え付けている。	果樹17 a
80a	果樹15 a
西条柿100a	西条柿（30 a）120本
西条柿	果樹2 a
畑のうち30aは果樹	みかん1 a
果樹栽培1ha、借受樹園地0a、貸付樹園地5a、耕作していない樹園地2a	いちじく
柿畑所有50a、借受30	いちじく
果樹26a	元椎茸
畜産 黒毛和牛 親6頭 子牛4頭	3 a に関して放牧用として牛のえさ用
果樹14 花木5	荒畑5 a
肉用牛繁殖12頭	果樹5a
（果樹等）約89	イチジク、柿、クリ等
和牛2頭	栗・梅
みかん(10本)原木しいたけ栽培(2000本)	みかん・柿畑10 a
果樹5（畑12に含む）	いちじく4a

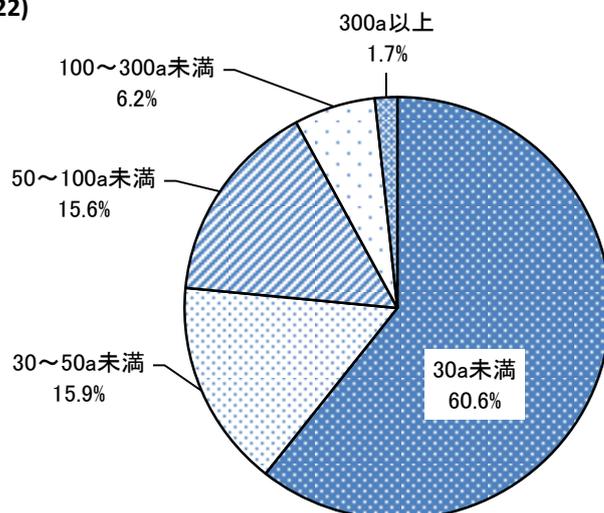
(6) 作業受託面積

① 耕起

「30a 未満」が 60.6%と最も高く、次いで「30～50a 未満」が 15.9%、「50～100a 未満」が 15.6%となっている。

なお、総面積は、16,519.5a であった。

(N = 422)

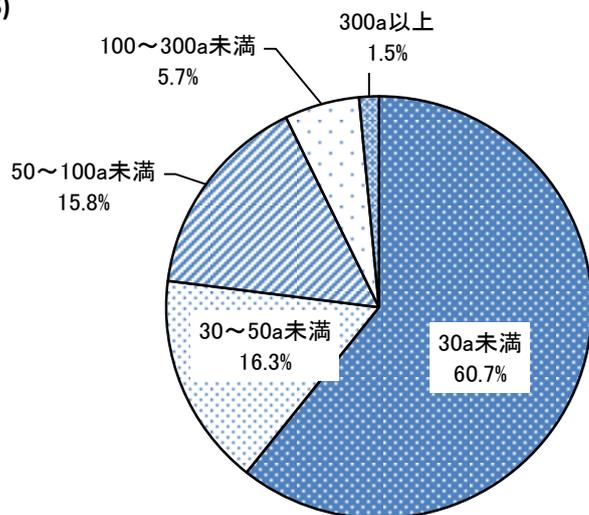


②代掻き

「30a 未満」が 60.7%と最も高く、次いで「30～50a 未満」が 16.3%、「50～100a 未満」が 15.8%となっている。

なお、総面積は、14,762.4a であった。

(N = 405)

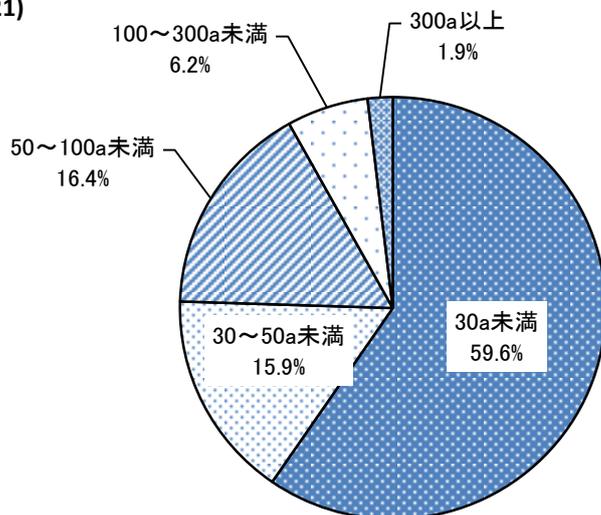


③田植え

「30a 未満」が 59.6%と最も高く、次いで「50～100a 未満」が 16.4%、「30～50a 未満」が 15.9%となっている。

なお、総面積は、16,374.6a であった。

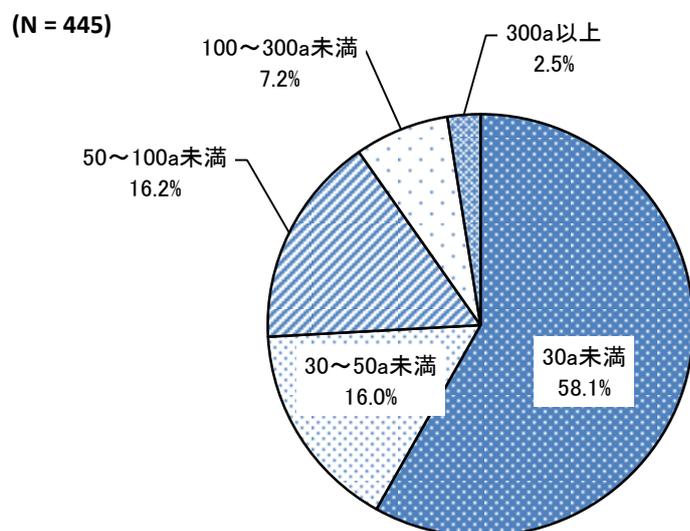
(N = 421)



④収穫・脱穀

「30a 未満」が 58.1%と最も高く、次いで「50～100a 未満」が 16.2%、「30～50a 未満」が 16.0%となっている。

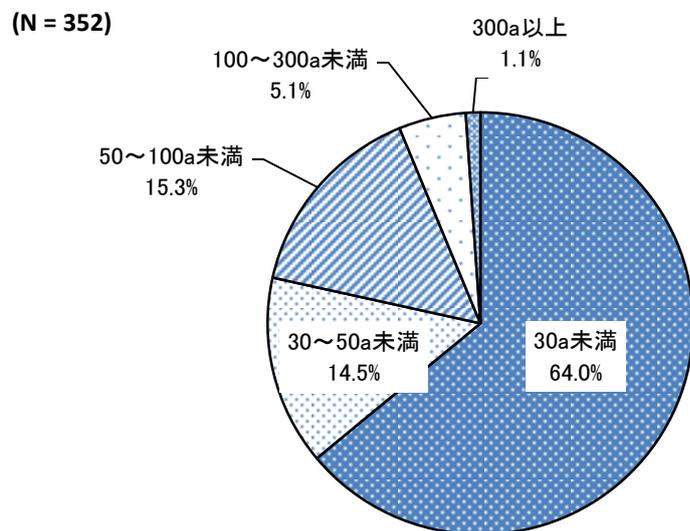
なお、総面積は、21,017.0a であった。



⑤草刈り

「30a 未満」が 64.0%と最も高く、次いで「50～100a 未満」が 15.3%、「30～50a 未満」が 14.5%となっている。

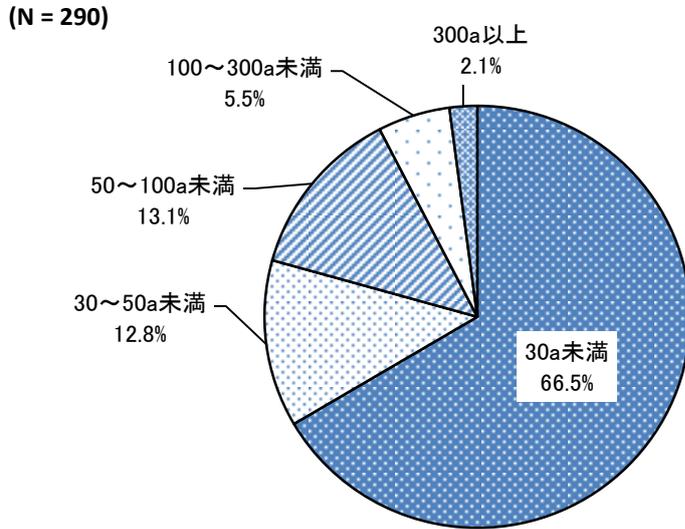
なお、総面積は、11,378.5a であった。



⑥防除

「30a 未満」が 66.5%と最も高く、次いで「50～100a 未満」が 13.1%、「30～50a 未満」が 12.8%となっている。

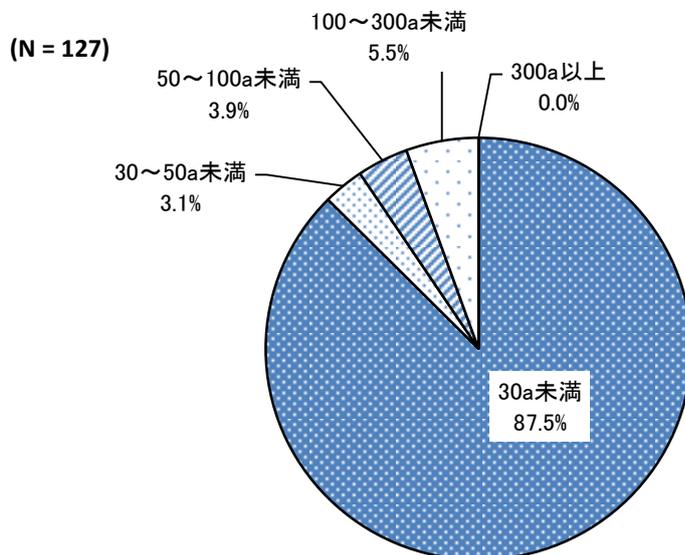
なお、総面積は、11,412.6a であった。



⑦その他

「30a 未満」が 87.5%と最も高く、次いで「100～300a 未満」が 5.5%、「50～100a 未満」が 3.9%となっている。

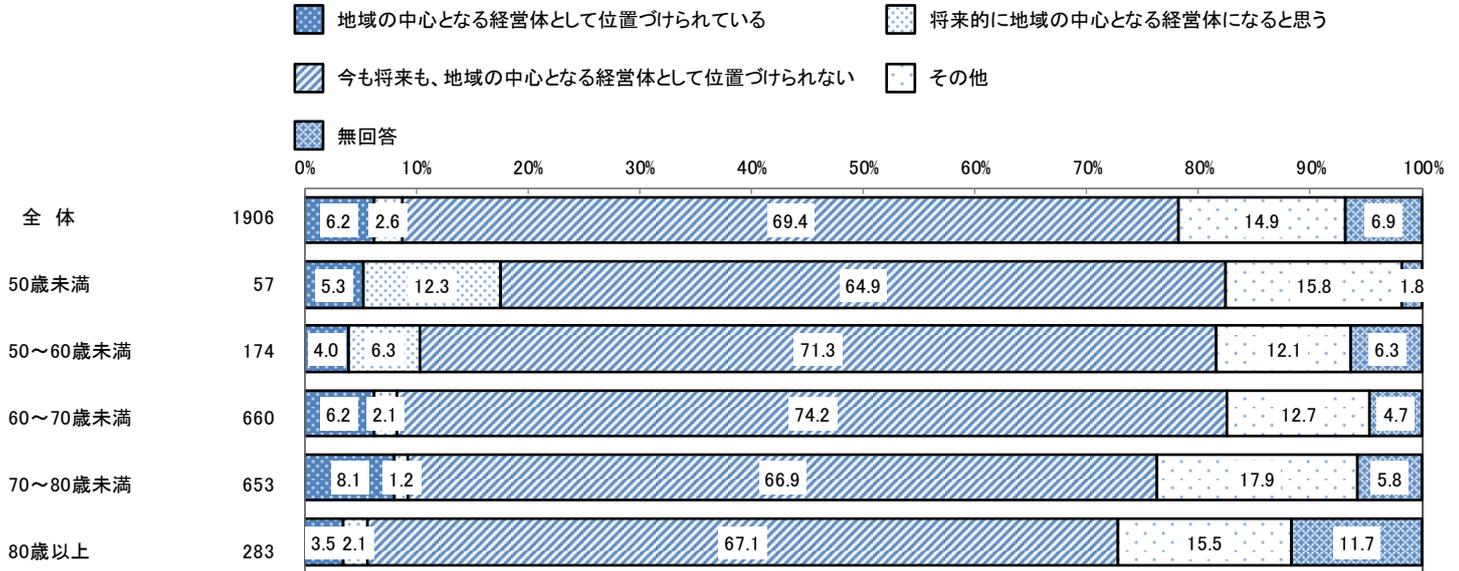
なお、総面積は、1,692.0a であった。



2. 自身の農業経営について

(1) 自身の農業経営の地域の中での位置づけ

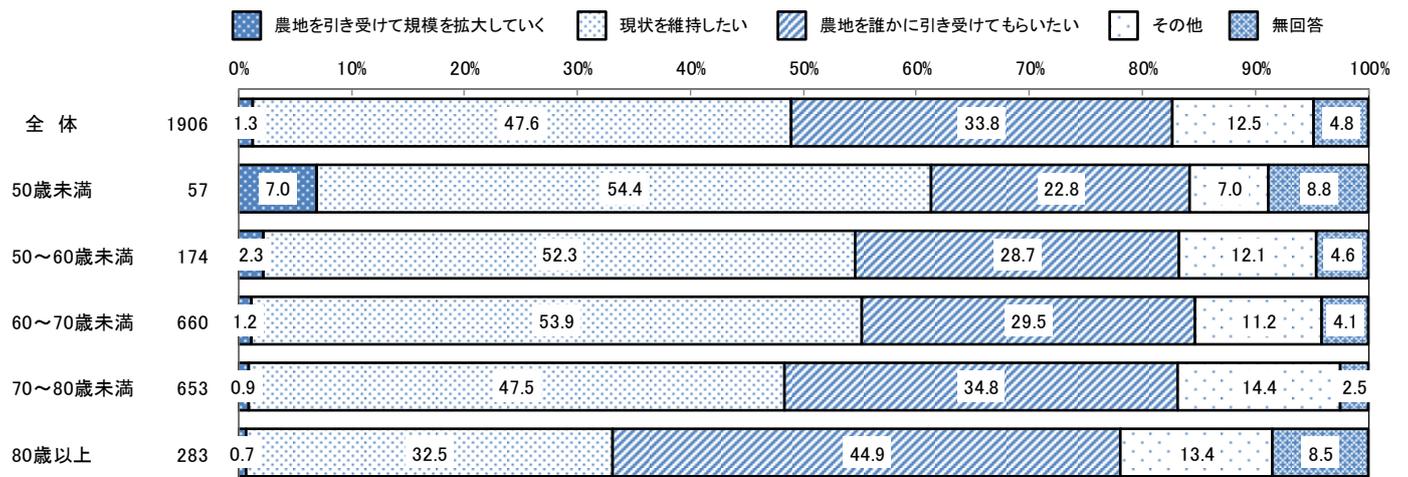
「今も将来も、地域の中心となる経営体として位置づけられない」が69.4%と最も高く、次いで「その他」が14.9%、「地域の中心となる経営体として位置づけられている」が6.2%となっている。



(2) 農業に対する考え

「現状を維持したい」が47.6%と最も高く、次いで「農地を誰かに引き受けてもらいたい」が33.8%、「その他」が12.5%となっている。

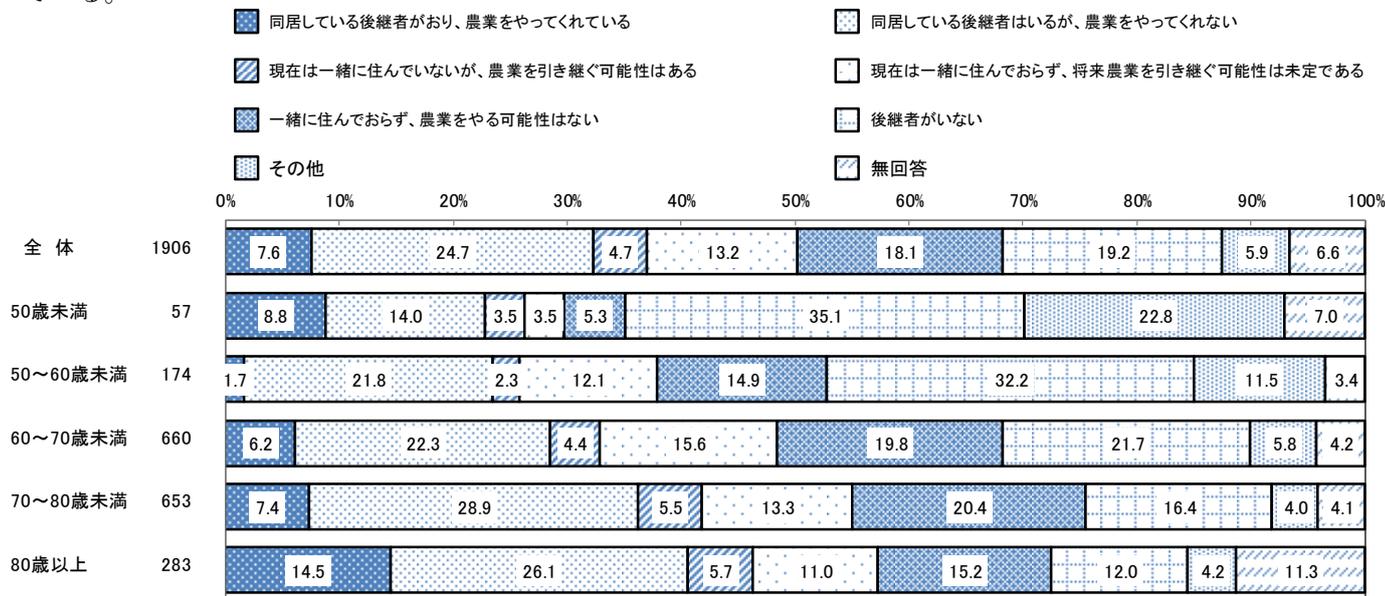
年齢別にみると、「農地を誰かに引き受けてもらいたい」は、「50歳未満」では、全体より10ポイント以上低く、「80歳以上」では10ポイント以上高くなっている。また、「80歳以上」では「現状を維持したい」が全体より10ポイント以上低くなっている。



(3) 後継者について

「同居している後継者はいるが、農業をやってくれない」が24.7%と最も高く、次いで「後継者がいない」が19.2%、「一緒に住んでおらず、農業をやる可能性はない」が18.1%となっている。

年齢別にみると、「後継者がいない」が、「50歳未満」及び「50～60歳未満」では、全体より10ポイント以上高くなっている。また、「50歳未満」では「同居している後継者はいるが、農業をやってくれない」及び「一緒に住んでおらず、農業をやる可能性はない」が全体より10ポイント以上低くなっている。

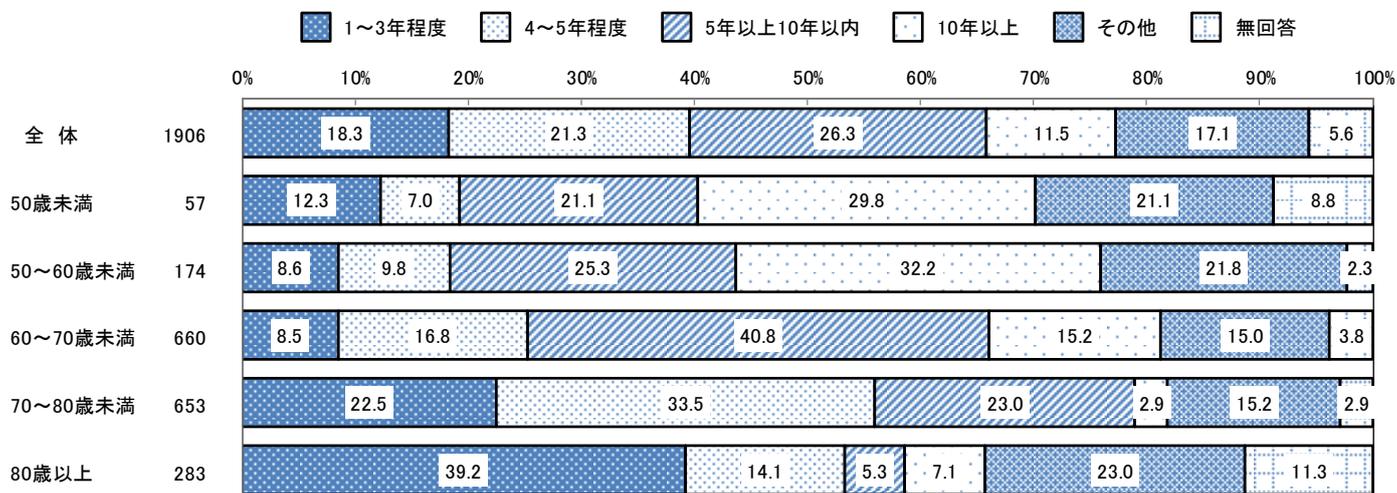


(4) 今後の経営の継続について

「5年以上10年以内」が26.3%と最も高く、次いで「4～5年程度」が21.3%、「1～3年程度」が18.3%となっている。

年齢別にみると、「50歳未満」及び「50～60歳未満」では「10年後」が、「60～70歳未満」では「5年以上10年以内」が、「70～80歳未満」では「4～5年程度」が、「80歳以上」では「1～3年程度」が全体より10ポイント以上高くなっている。

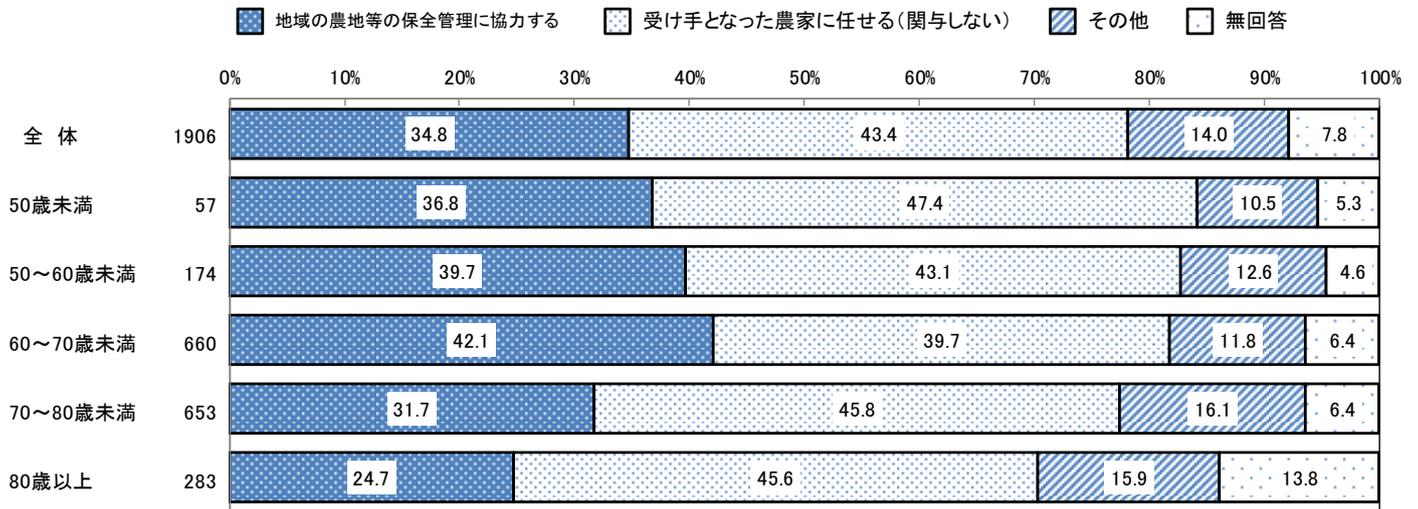
また、「50歳未満」及び「50～60歳未満」では「4～5年程度」が、「80歳以上」では「5年以上10年以内」が全体より10ポイント以上低くなっている。



(5)リタイア後の地域農業との関わりについて

「受け手となった農家に任せる（関与しない）」が43.4%と最も高く、次いで「地域の農地等の保全管理に協力する」が34.8%、「その他」が14.0%となっている。

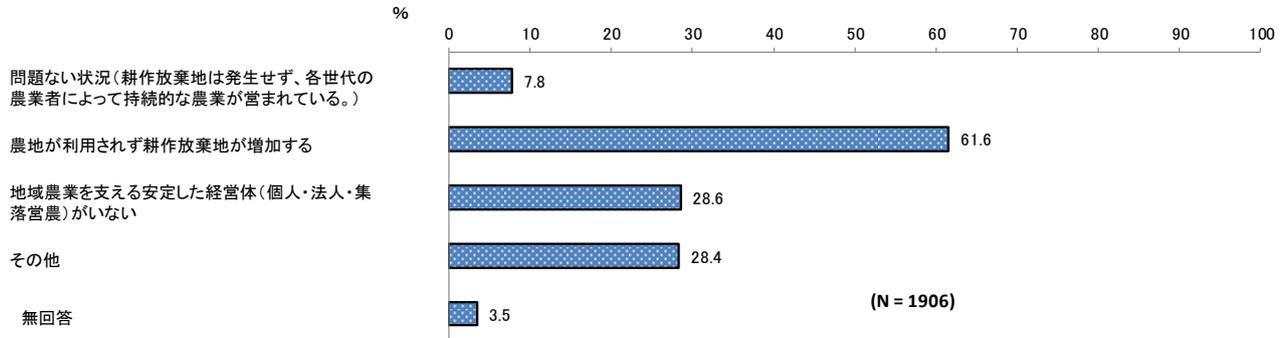
年齢別にみると、「80歳以上」では「地域の農地等の保全管理に協力する」が全体より10ポイント以上低くなっている。



3. 集落の農業について

(1) 自身の集落や地域の農業を放っておいた場合の10年後のことについて

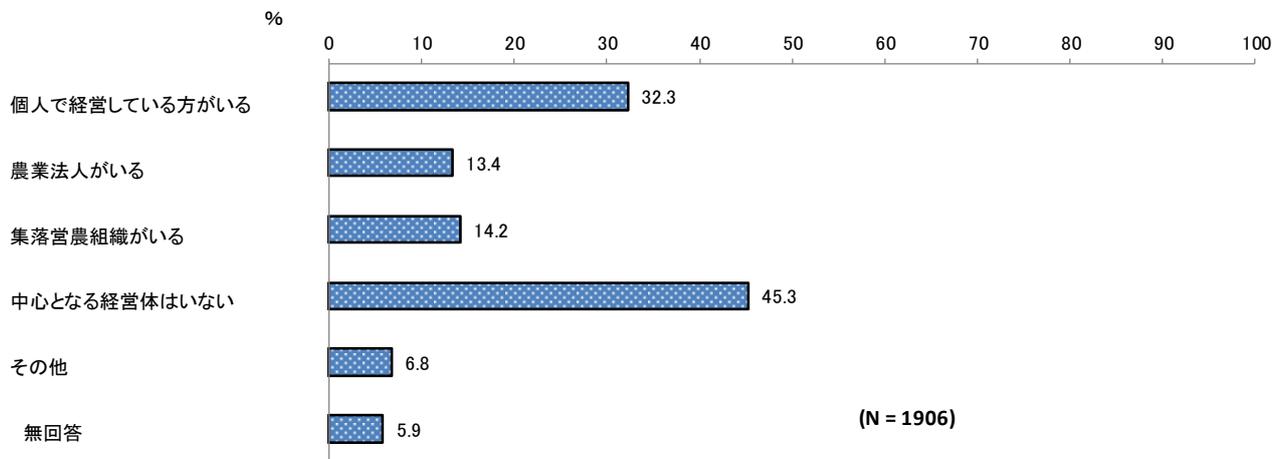
「農地が利用されず耕作放棄地が増加する」が61.6%と最も高く、次いで「地域農業を支える安定した経営体（個人・法人・集落営農）がない」が28.6%、「その他」が28.4%となっている。



(2) 自身の集落・地域内で今後の地域農業の中心となる経営体について

「中心となる経営体はいない」が45.3%と最も高く、次いで「個人で経営している方がいる」が32.3%、「集落営農組織がいる」が14.2%となっている。

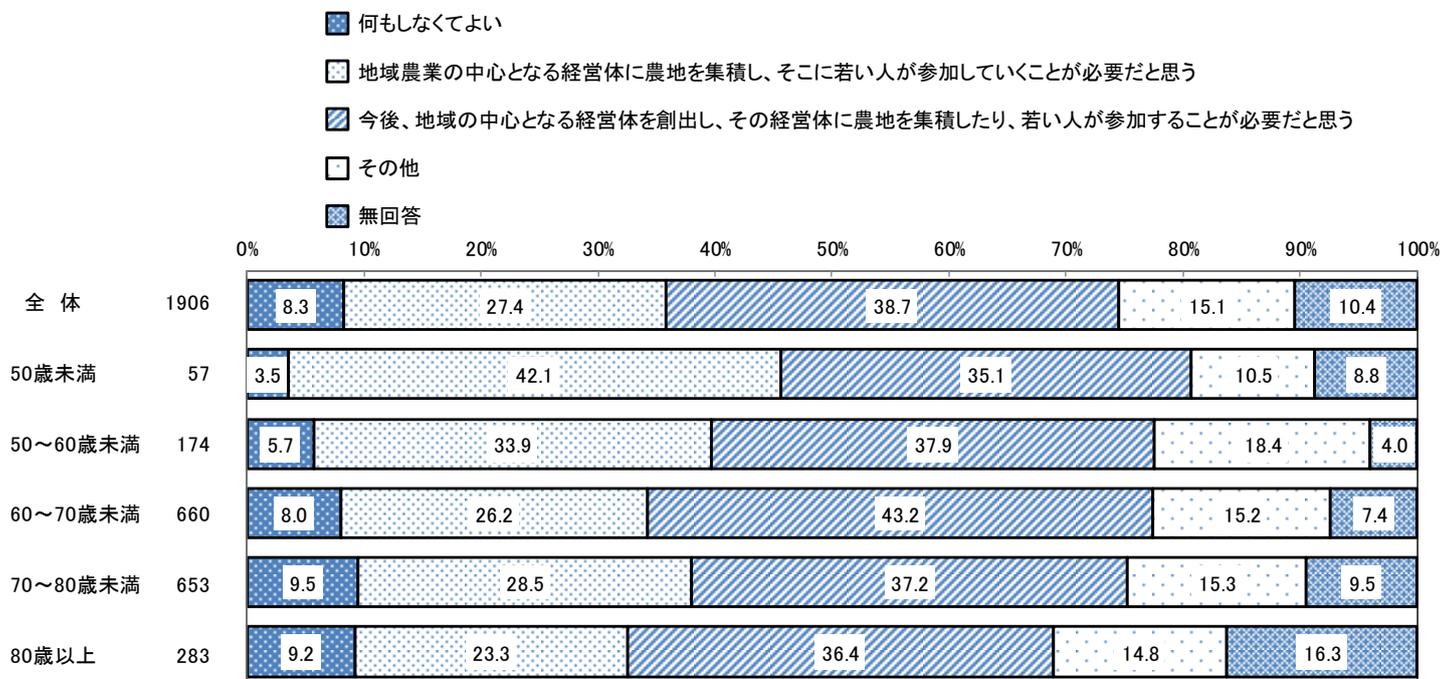
年齢別にみると、「50歳未満」では「中心となる経営体はいない」が全体より10ポイント以上低くなっている。



(3) 自身の集落・地域内の農業を持続可能なものにするために必要なこと

「今後、地域の中心となる経営体を創出し、その経営体に農地を集積したり、若い人が参加することが必要だと思う」が 38.7%と最も高く、次いで「地域農業の中心となる経営体に農地を集積し、そこに若い人が参加していくことが必要だと思う」が 27.4%となっている。

年齢別にみると、「50歳未満」では「地域農業の中心となる経営体に農地を集積し、そこに若い人が参加していくことが必要だと思う」が全体より 10ポイント以上高くなっている。

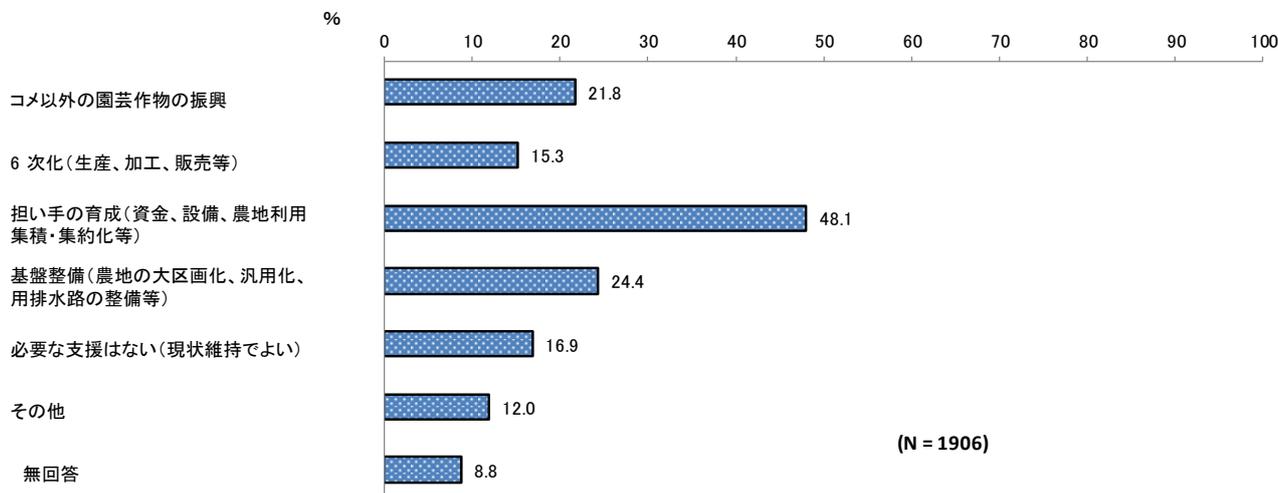


(4) 自身の集落・地域農業にとって必要な支援

「担い手の育成（資金、設備、農地利用集積・集約化等）」が 48.1%と最も高く、次いで「基盤整備（農地の大区画化、汎用化、用排水路の整備等）」が 24.4%、「コメ以外の園芸作物の振興」が 21.8%となっている。

年齢別にみると、「50歳未満」では「6次化（生産、加工、販売等）」、「担い手の育成（資金、設備、農地利用集積・集約化等）」及び「担い手の育成（資金、設備、農地利用集積・集約化等）」が全体より 10ポイント以上高く、「必要な支援はない（現状維持でよい）」が 10ポイント以上低くなっている。

「80歳以上」では「コメ以外の園芸作物の振興」が全体より 10ポイント以上低くなっている。



(5) 自身の集落で農業を続けるために、今後重要だと思うこと

「新たな集落営農組織や農業法人等の立ち上げ、新規参入者の促進が実現すること」が 27.1%と最も高く、次いで「現在、地域農業の中心となっている担い手が成長・発展すること」が 20.0%、「分散している農地の利用集積・集約化を行い、効率的な農作業が行えるようになること」が 17.1%となっている。

年齢別にみると、「50歳未満」では「現在、地域農業の中心となっている担い手が成長・発展すること」が全体より 10ポイント以上高くなっている。

